

「2021年夏季ボーナス及び暮らし向き」アンケート調査結果について

当研究所では、毎年「夏季ボーナス及び暮らし向き」アンケート調査（6月調査）を実施しており、この度、2021年の調査結果を取りまとめましたのでお知らせいたします。なお、詳細は当研究所機関誌「福島の進路」7月号（6月28日発行）及び当研究所ホームページに掲載いたします。

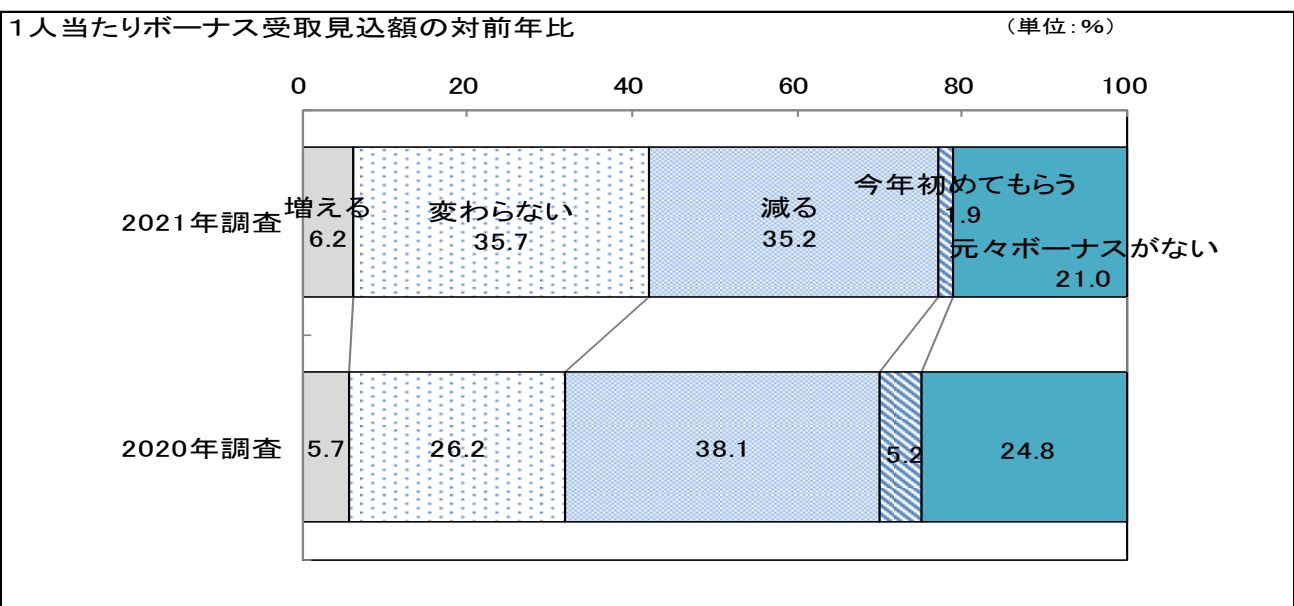
<要旨>

- 2021年の1人当たり受取見込額の増減をみると、「減る」が35.2%と「増える」の6.2%を大きく上回っていることから、全体的にみて2021年の受取見込額は前年を下回るものと予想される。
- ボーナスの使い道をみると、「貯蓄」が72.9%（前年比+7.7ポイント）で最も多く、新型コロナウイルス感染拡大による先行きの不透明感などから、不時の備えなどを目的に貯蓄の割合が上昇したものとみられる。
- 今後1年間の暮らし向きは、「変わらない」が59.5%と過半数を占めて最も多く、現在の暮らし向きが当面続くものと予想される。
- 家計支出の動向をみると、外食や大型商業施設、酒場、旅行などの利用が減少している一方で、自炊やネット・通販、デリバリー・テイクアウトなどの利用が増えており、県民は不要不急の外出や密を控える消費行動を続けているものと考えられる。

1. 2021年夏季ボーナスアンケート調査結果

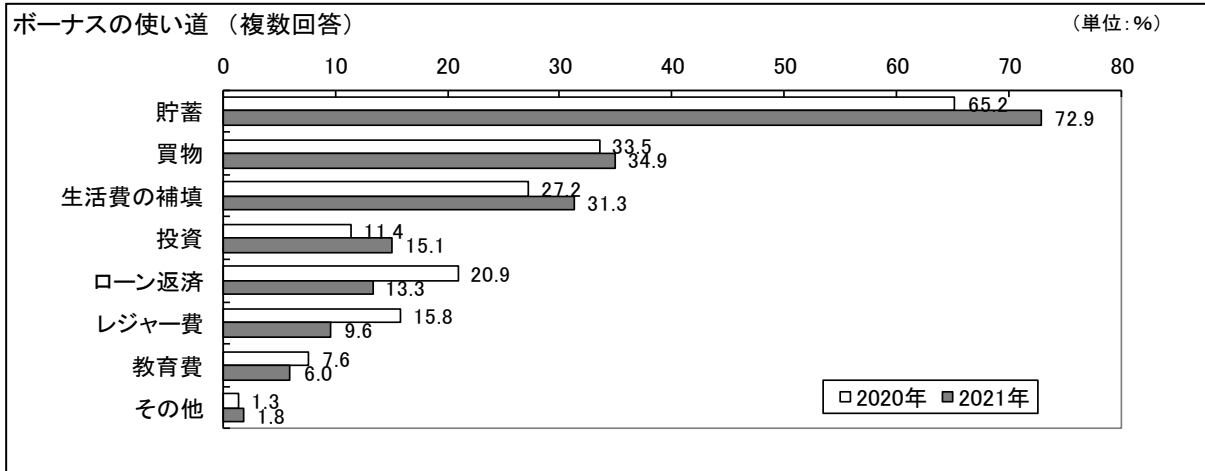
(1) 受取見込額の増減

「減る」が35.2%、「増える」が6.2%と、「減る」が「増える」を大きく上回っていることから、全体的にみて受取見込額は前年を下回るものと予想される。



(2) ボーナスの使い道

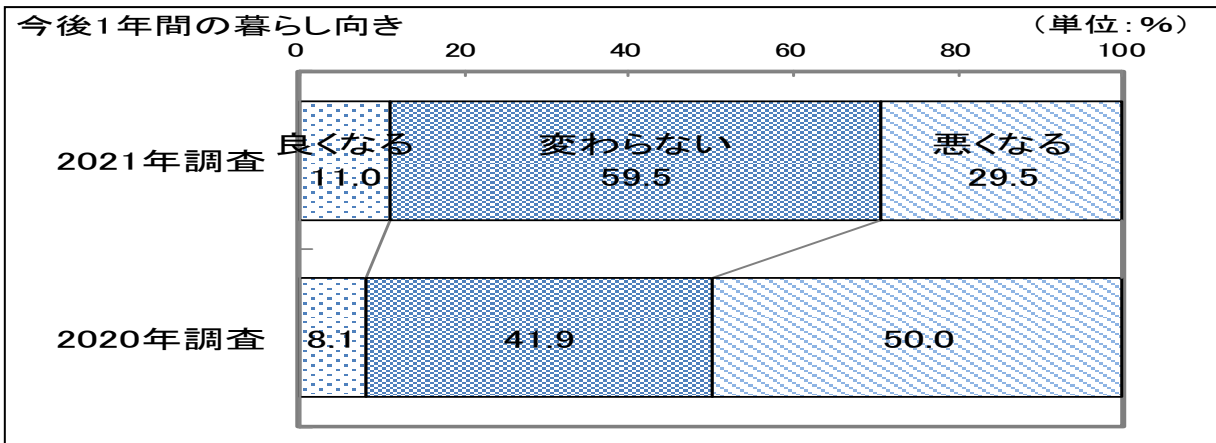
「貯蓄」が72.9%（前年比+7.7ポイント）で最も多く、新型コロナウイルス感染拡大などを背景に、不時の備えなどを目的とした貯蓄の割合が上昇したものとみられる。



2. 暮らし向きアンケート調査結果

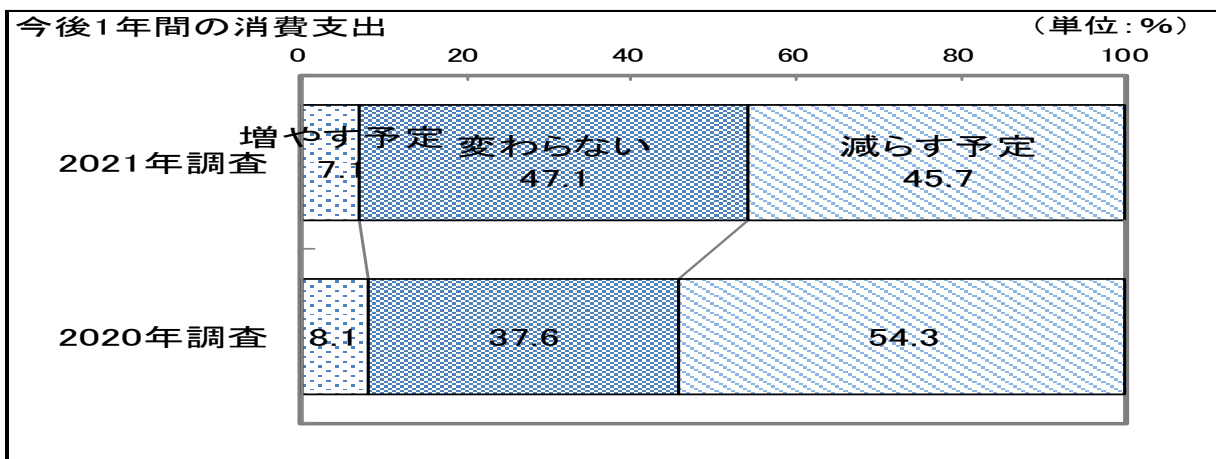
(1) 今後1年間の暮らし向き

「変わらない」が59.5%で最も多く、現在の暮らし向きが当面続くものと予想される。



(2) 今後1年間の消費支出

「減らす予定」が45.7%と「増やす予定」7.1%を大きく上回っていることから、消費支出の減少が予想される。



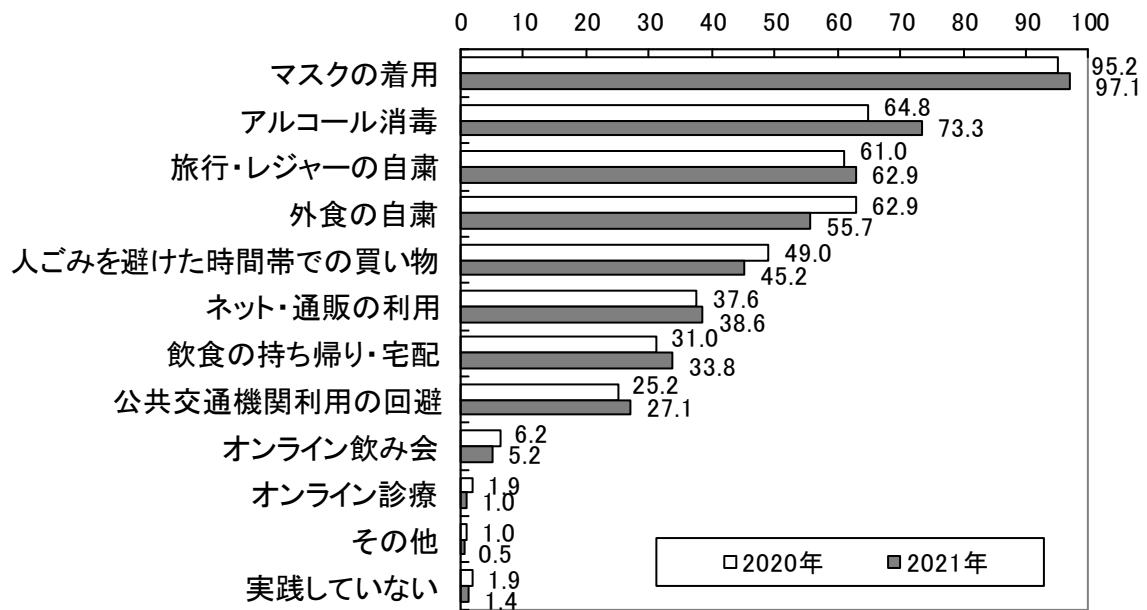
3. 新型コロナウイルスに関する調査結果について

本調査では、現状における福島県民の新型コロナウイルスに対する感染防止策や不安感を確認するとともに、家計支出の動向について調査した。

(1) 新型コロナウイルスの感染防止策について

本県では、マスクの着用がほぼ100%、アルコール消毒が7割超の実施割合となり、感染防止策が県民の「新しい生活様式」として定着しているものとみられる。

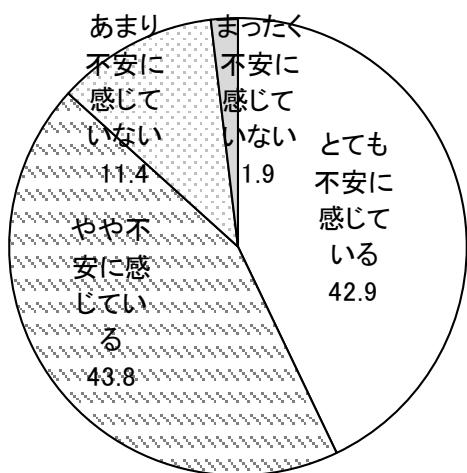
新型コロナウイルスの感染拡大防止策（複数回答）（単位：％）



(2) 新型コロナウイルスに対する不安度について

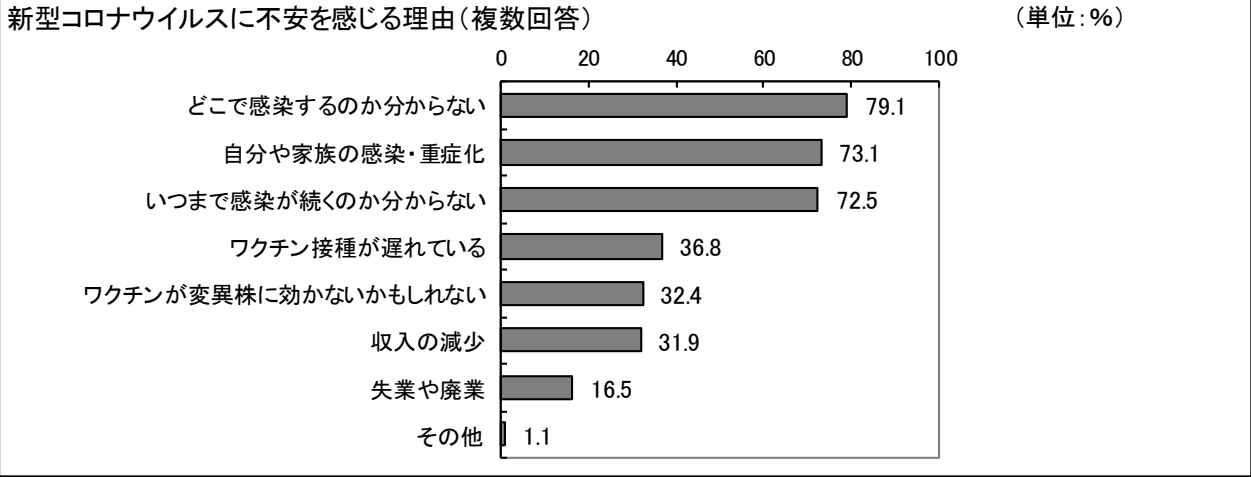
「やや不安に感じている」が43.8%、「とても不安に感じている」が42.9%とほぼ同率で合計86.7%となり、約9割の県民が新型コロナウイルスに対して不安を感じているものとみられる。

新型コロナウイルスに対する不安度（単位：％）



(3) 新型コロナウイルスに不安を感じる理由

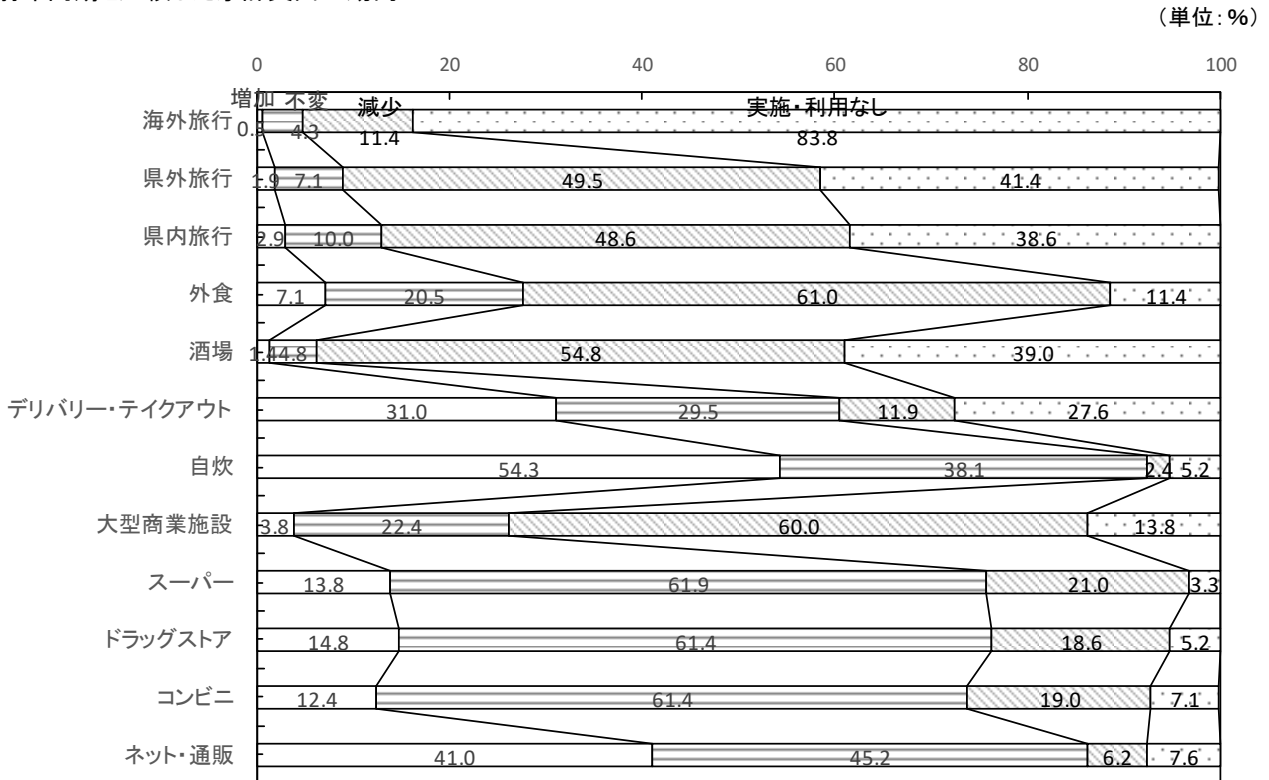
「どこで感染するのか分からない」が79.1%で最も多く、次いで「自分や家族の感染・重症化」73.1%、「いつまで感染が続くのか分からない」72.5%となり、新型コロナウイルス感染に対する不安が大きいものと考えられる。



(4) 家計支出の動向について

外食や大型商業施設、酒場、旅行などの利用が減少している一方で、自炊やネット・通販、デリバリー・テイクアウトなどの利用が増えており、県民は不要不急の外出や密を控える消費行動を続けているものと考えられる。

前年同期と比較した家計支出の動向について



本件に関する質問・お問い合わせ先
 担当：和田 TEL 024-523-3171